

PONO KIDS鎌倉 令和7年度 放課後等デイサービス 事業所評価結果報告書

事業所名: PONO KIDS鎌倉

所在地: 神奈川県鎌倉市

サービス種別: 放課後等デイサービス

評価実施日: 令和7年12月

改善検討会議: 令和8年3月7日

公表日: 令和8年3月

1. 回答状況

区分	対象	回答数
保護者評価	利用児童の保護者	17名
従業者評価	事業所職員	7名

2. 評価結果と事業所の対応

環境・体制整備

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
スペースの適切さ	13/17 (76%)	3/7 (43%)	改善困難
職員の配置数	17/17 (100%)	4/7 (57%)	現状維持
環境の構造化・バリアフリー	13/17 (76%)	3/7 (43%)	改善困難
清潔さ・過ごしやすさ	17/17 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
個別スペースの確保	—	4/7 (57%)	現状維持

改善検討の結果:

建物・教室の構造上の制約により、スペースの拡張は困難である。

児童の成長に伴い体格が大きくなることや、長期休暇中の長時間利用ではスペースが手狭に感じる場面がある。

現状の構造の中では最大限の環境整備を行っている。

生活空間は毎日清掃を実施し、空気清浄機・加湿器の導入により清潔な状態を保っている。

職員の休暇調整を適切に行い、児童の特性および当日の利用人数を考慮した上で管理者が配置人数を管理している。

業務改善

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
PDCAサイクルへの職員参画	—	5/7 (71%)	現状維持
保護者評価の活用	—	5/7 (71%)	現状維持
職員意見の反映	—	7/7 (100%)	現状維持
第三者評価の実施	—	1/7 (14%)	改善困難
研修機会の確保	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

保護者向け評価票に加え、家族支援の場でも保護者の意見を収集し、業務改善に活用している。職員間の風通し

がよく、日常的に意見を交換できる環境が整っている。研修は毎月実施しており、職員の資質向上の機会が確保されている。第三者評価については費用・体制面から現時点では実施困難である。

適切な支援の提供

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
支援プログラムの作成・公表	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
個別支援計画の作成	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
計画に沿った支援の実施	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
プログラムの固定化防止	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
モニタリング・計画の見直し	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

毎月会議を開催してプログラムを決定しており、複数名での検討により特定の担当者の独断にならない体制が取られている。活動プログラムは毎月内容を変更し、クラフトワーク・調理・SST等を組み合わせて固定化しないよう工夫している。支援員回覧ボックスを活用して計画を共有している。支援開始前日にフローを全員に送信し、当日はフローを掲示して変更があれば随時伝達している。毎月の振り返り会議により気づきを共有し、半年に1回の計画見直しを実施している。

関係機関との連携

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
相談支援事業所との連携	—	5/7 (71%)	現状維持
地域関係機関との連携体制	—	5/7 (71%)	現状維持
学校との情報共有	—	7/7 (100%)	現状維持
地域交流の機会	7/17 (41%)	2/7 (29%)	現状維持

改善検討の結果:

放課後等デイサービスガイドラインに定める「自立支援・日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流活動」「余暇活動」の4つの基本活動を日常的に実施している。活動への参加は強制せず、本人の自己決定を前提とした支援を行っている。相談支援事業所との会議には児童発達支援管理責任者が参加している。毎月ハイライトを書面で提供し、双方向の情報共有に努めている。公園・買い物体験・長期休暇中の外出活動等を通じて地域との接点を設けている。

保護者への説明・家族支援

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
運営規程等の説明	17/17 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
計画の説明と同意	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
日常的な情報共有	17/17 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
面談・助言の実施	17/17 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
保護者同士の交流機会	16/17 (94%)	6/7 (86%)	現状維持
共感的支援	17/17 (100%)	—	現状維持
苦情対応体制	17/17 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
情報発信	15/17 (88%)	2/7 (29%)	改善検討

改善検討の結果:

自立支援協議会には管理責任者が参加している。年4回の家族イベントを開催しており、地域企業と連携した体験活動や保護者同士の意見交換の場として保護者会を実施している。契約時には契約書の読み合わせを行い、その場で質問に対応している。アセスメントフォームと面談を通じて保護者の意向を継続的に確認している。苦情

が発生した際は把握した当日に会議を開催し対応している。情報発信については、HPのリニューアルおよびLINEによる日常的な発信を実施しているが、従業員の認知が不十分であった。自社の情報発信状況の社内周知を強化するとともに、LINEのリッチメニューを活用した情報提供の充実を図る。

非常時の対応・安全管理

設問	保護者「はい」	従業員「はい」	事業所対応
マニュアルの策定・周知	15/17 (88%)	7/7 (100%)	現状維持
避難訓練の実施	16/17 (94%)	7/7 (100%)	現状維持
BCP策定・訓練	—	7/7 (100%)	現状維持
安全計画の周知	17/17 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
事故時の説明	14/17 (82%)	—	現状維持
ヒヤリハット共有	—	6/7 (86%)	現状維持
虐待防止研修	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

研修を訓練として位置づけ、定期的実施している。服薬等の情報は児童票への記載により確認し、支援員への周知を図っている。けが等への対処法はマニュアルに明記している。インシデント発生時はヒヤリハット報告書を作成し、支援員間で共有することで再発防止策を検討している。避難経路・避難梯子・消火器の設置、飛び出し防止の施錠等の安全管理を実施している。

3. 保護者からのご意見（抜粋）

- 支援員の方々が皆さん優しく指導して下さるので、安心している。
- 毎月配られる予定表を見て、毎週楽しみに通っている。
- 子どもの発達に合わせて様々なプログラムを考えてくれ、飽きることがない。
- 学校は違っても仲の良いお友達や、年齢の違ったお友達と遊ぶのを楽しみにしている。
- 毎週の送迎に感謝している。

4. 今年度の主な改善事項

1. **情報発信の改善** — LINEのリッチメニューを活用し、活動情報・マニュアル・災害対策等を保護者がいつでも確認できる体制を整備する。併せて、自社の情報発信状況を支援員にも社内周知する。
2. **スペースの有効活用** — 構造上の制約がある中で、活動内容や時間帯に応じた空間の使い分けを工夫する（運動系は外出活動で対応する等）。
3. **苦情対応の継続強化** — 無記名での意見提出も含め、保護者が意見を伝えやすい体制を維持する。

5. 補足事項

バリアフリーについて:

当事業所は2階に所在しており、階段のみのアクセスとなっている。

利用児童の障害特性に応じた視覚支援（スケジュールの視覚化、環境の構造化等）は日常的に実施しており、情報伝達上の配慮は適切に行っている。評価項目における「バリアフリー」の文言が物理的な身体障害対応を想起させるため、従業員評価で「いいえ」が多くなる傾向があるが、当事業所の利用対象児童の特性上、階段アクセスが支援提供の支障となるケースはない。

スペースについて:

放課後等デイサービスの利用児童は児童発達支援と比較して体格が大きく、長期休暇中の長時間利用もあるた

め、スペースの手狭さが課題として認識されている。建物の構造上、物理的な拡張は困難であるが、活動内容に応じた空間の使い分け（運動系は外出活動で対応する等）により対処している。

情報発信について:

HPは令和7年度にリニューアル済みであり、事業所の情報発信はHP及びLINEを主たるチャンネルとしている。SNSによる発信は、撮影・アップロードに係る支援員の業務負荷（児童を見る時間の圧迫）、および児童の個人情報保護の観点から、現時点では積極的な運用を行わない方針としている。従業者評価で情報発信に関して「いいえ」「わからない」が多かったのは、発信を行っていないのではなく、支援員が自社の発信状況を十分に把握していなかったことによるものである。今後はLINEのリッチメニューを活用した情報提供の充実を図るとともに、社内での情報共有を強化する。

個別スペース（相談室）について:

従業者評価において相談室の物品が多い旨の指摘があったが、評価実施後に整理を行い、児童が安全にクールダウン等で使用できる状態に改善済みである。

支援前後の打合せについて:

送迎業務の都合で支援終了直後に対面での振り返りが困難な場合がある。これに対し、支援内容や役割分担は前日にフローをChatworkで全員に送信し、当日は掲示して変更を随時伝達している。支援終了後の振り返り・気づきもChatworkの日報で全支援員に共有する仕組みを構築しており、対面での打合せが困難な場合でも情報の欠落を防ぐ体制が整っている。

保護者との定期面談について:

全事業所において、モニタリング面談に加え、家族支援として定期的な面談の仕組みを設けている。面談日以外にも送迎時のコミュニケーションやLINEを通じて、保護者との日常的な情報共有を行っている。

苦情対応について:

従業者評価において「無記名の申し入れがあり、保護者が意見を伝えにくい状況ではないか」との指摘があった。当該申し入れについては把握後速やかに対応済みである。今後も無記名を含む多様な意見提出手段を維持し、保護者が意見を伝えやすい環境を確保する。

評価結果の事業所間差異について:

当法人では桜山・鎌倉の各事業所で同一の運営体制・業務フローを採用している。従業者評価における自由記述の量や具体性に事業所間で差が見られるが、これは支援の質の差ではなく、評価記入に対する個々の職員の記述量の違いによるものである。